

Enjoy!+α Arts & Entertainment
だからおもしろい!? 01

ご当地エンタメ小説

恋あり!冒険あり!青春あり!
滋賀をめぐる読書の旅へ

Special Interview

作家 松本匡代さん(「石田三成の青春」著者)
新たな歴史ヒーロー像誕生!
創作の意外な舞台裏

Walk On 番外編 三成青春MAP

石田三成ゆかりの地を歩く

KEIBUN友の会会員特典のご案内

イベント/シネマ/アート/スポーツ/
ゴルフ/旅行/レジャー/健康/
カルチャー/グルメ

07

プレゼント/Reader's Letters

25

だからおもしろい!?!

ご当地エンタメ小説

現代人の本離れ、活字離れが顕著だという。書店や図書館で本
を手にするときのあのワクワク感^{ほろりかん}は誰にでも覚えがあるはず。
忙^{めい}裡^り閑^{かん}を偷^{ぬす}む——わずかな時間でも気軽に読書が楽しめる、
身近な滋賀を舞台にしたエンタメ小説にスポットを当て、
本を読む楽しさを再発見してみよう。



今月の表紙

謎

あなたはわかりますか?
謎 解き×世界遺産

教会とは思えない
超モダンなフォルム



ブラジリア(ブラジル・1987年登録)



カテドラル・メトロポリターナ

“リオ五輪”の開幕を控える
ブラジルの首都ブラジリアは、
未開の高原に建設された計画
都市で、近代都市が世界遺産
に登録されるのは当時として
は異例のことだった。創造性
にあふれたモダンな建物が多く、カテドラル・メトロポリターナも
ブラジルを代表する建築家が設計した近代的なカトリック大聖堂
である。16本の白い支柱は空に向かって祈る手を表している。

～感性を磨く、感動を見つける～

Enjoy!+α
Arts & Entertainment

ほんの少しの好奇心と最初の一步を踏み出す勇気—
扉の向こうにあなたの知らない素敵な世界が広がります

謎解きも楽しい!

ミステリーの現場

余呉湖

双子の兄弟の兄の妻が余呉湖畔で殺された。その時、兄は博多、弟は酒田にいてアリバイは完璧。そして第二の殺人が起こり、謎は深まるばかり…。多彩な伏線と大胆なトリックで読者を仰天させる有栖川有栖の『マジックミラー』(講談社文庫)。謎解きの面白さが満喫できる。

膳所駅

膳所駅で轢死した老人は事故死か自殺だったのか…。ベテランの保険調査員・村越の調査も二転三転の末に執念が実って真実にたどり着く。第13回松本清張賞を受賞した広川純の『一応の推定』(文春文庫)は、保険業界を熟知した著者が、現代社会の問題点をあぶり出す社会派ミステリー。

彦根市古沢町

『新参者』で人気を博した東野圭吾の加賀恭一郎シリーズ第10作『祈りの幕が下りる時』(講談社)。東京のアパートで滋賀県在住の女性の腐乱遺体が発見された。アパートの住人である男性は消息不明。女性が働く彦根市の清掃会社での捜査を進めるうちに人物が浮かび上がる…。

ヴォーリス建築

重要伝統的建造物群保存地区の調査のために近江八幡を訪れた民俗学者の竹之内は、旧知の刑事と再会し、京都と軽井沢で起こった不審死事件を調べる。共通するのは2人ともヴォーリス設計の家に住んでいたことだった…。秋月達郎の『伝道師の形見 近江八幡殺人事件』(ジョイノベルズ)は、著者が何度も取材を重ねたとあって、近江八幡を旅している気分してくれる。

受講生募集 KEIBUN文化講座で近江の“文学”を楽しもう

文学を通してみる近江の風景

旅行作家 西本柊枝

草津会場	講座内容
9月 6日(火)	近江の文学的風土
9月20日(火)	宮本常一「山に生きる人びと」
10月 4日(火)	司馬遼太郎「街道をゆく」～ケケス～
10月18日(火)	現地学習 ～西の湖水郷めぐり～
11月 1日(火)	山本兼一「夢をまことに」
11月22日(火)	近松門左衛門「真途の飛脚」

※各13:30～15:00 ※現地学習は別途参加費必要
 ※詳細は116ページ、KEIBUNホームページ参照

の中継では参加者それぞれのドラマチックなフライトが紹介されるが、その舞台裏をリアルに、感動的に描いたのが、ロングセラー小説『100回泣くこと』で知られる中村航の『トリガール!』だ。

主な舞台は東京の工業大学(著者の母校がモデル)。この大学に入学した女子大生がひょんなことから人力飛行機サークルに入り、女の子でありながらもなんとパイロット班の一員としてコンテストを目指すことに。機体の制作や整備など裏方たちの群像劇も丁寧に描かれていて興味深く、パイロットの練習過程から本番に向けて熱くなる高揚感も青春そのもの! 先輩



『トリガール!』
 中村航(角川マガジズ)
 ※書影は単行本、文庫本発売中

SPOT 松原水泳場、春日神社(松原町)、多景島



『青春ぱんだバンド』
 瀧上耕(小学館)
 ※書影は単行本、文庫本発売中

SPOT 長浜駅前、大通寺、長浜びわこ大仏、菅浦、姉川ダム

の怪我で急遽出場することになったヒロインが、重力に逆らい、琵琶湖に飛び立つクライマックスは素直に感動できるだろう。

瀧上耕の『青春ぱんだバンド』は、湖北の長浜市が舞台。小説に登場するさまざまな名称は架空だが、滋賀県民ならニヤリとするスポットやネタが満載だ! 名門進学校の高校三年生5人組が、大学受験をひかえた夏休みに、にわかにバンドを

結成し、学園祭に出演するという、熱い友情あり、キュートな恋心ありのノスタルジックなひと夏の物語。大人になった彼らを経てエピソードは、青春時代を懐かしむ世代のハートに響くだろう。

恋愛小説編
 不器用だけど爽やかなラブストーリーはいかが?

草津市の公認マスコットキャラクター「たび丸」をモデルにした近江屋草助の小説『琵琶湖発ご当地キャラたび助の恋』が一昨年発表され、たび丸は一躍ときの人(?)に。舞台は滋賀県草津市。観光マスコット「たび助」を売り出すために市役所の観光課に特別チームが編成され、職員自ら着ぐるみを着て市のPR活動に奮闘する。数々のトラブルを乗り越え、観光課も一丸となつて同県彦根市の人気キャラに對抗すべく、「ご当地キャラ選手権」に挑戦するのだが…。『たび助』を通して主人公山田君とヒロイン山田さんは急接近、不器用でもどかしい恋が展開する。すれ違う二人の恋の行方はどうなるのか、読者はやきもきするばかりだが、読後感は爽やかだ。

ところで本家、草津市のたび丸は、昨



『琵琶湖発ご当地キャラたび助の恋』
 近江屋草助(文芸社)

SPOT 草津市、琵琶湖博物館、彦根市(架空の設定だが)



恋あり!冒険あり!青春あり!
 滋賀をめぐる読書の旅へ

いわゆるエンタメ小説はその軽妙な語り口にぐいぐいと引っ張られ、ライト感覚でサクッと読めるところがいい。それも私たちの身近なところが舞台なら、すぐにその世界に入り込み、登場人物たちにも感情移入できる。あなたを読書の世界へ誘う魅力的なご当地エンタメ小説をいくつか紹介しよう。(著者敬称略)

ファンタジー小説の舞台となる竹生島(写真提供/びわこビジタースビューロー)



『湖猫、波を奔る』
 弟子吉治郎(サンライズ出版)

SPOT 竹生島、河内風穴、西野水道、田川カルバート、日吉大社、大津港、琵琶湖疏水

ファンタジー小説編
 広大な琵琶湖は
 奇想天外!摩訶不思議!?

ベストセラー作家・万城目学の小説『偉大な、しゅららばん』は、パワースポットである琵琶湖を舞台に、超能力を持つ一族同士が対決する壮大なファンタジー。映画化もされて大きな話題になった。琵琶湖のもつ深遠な神秘性が作家たちの創作の源泉にもなっているのだろう。

テレビのプロデューサーでもある弟子吉治郎の『湖猫、波を奔る』は、琵琶湖に秘められた地質学的ロマンをふんだんに盛り込んだスケールの大きな小説。神の島、竹生島に棲みついた黒猫と元飼主主だった笛吹き少女、そして河内風穴や西野水道に惹かれる穴マニアの少年が、それぞれ大人になって竹生島を取材するレベクルとともに湖底洞窟の謎に迫る。作品には滋賀に関するワードが散りばめられ、登場人物によつて濃縮が語



『蛇(ジャ)』(上・下巻)
 柴田よしき(徳間文庫)
 ※品切れ中、重版未定

SPOT 真野浜、竹生島、伊吹山、賤ヶ岳、余呉湖、比良山、近江舞子、比叡山、岩間寺

青春小説編
 君も熱くなれ!!
 これが湖国の青春だ!

毎年7月、彦根市の松原水泳場で「鳥人間コンテスト」が行われている。テレビ

年の「ゆるキャラグランプリ」で前年より順位を大幅にあげて大躍進!! キャラの大相撲大会では優勝を果たしたとか。話題を集めるたび丸に今後も目が離せない。

最初に紹介した『湖猫、波を奔る』では、竹生島で生中継するテレビクルーを迎え、万全の態勢を整える長浜市役所観光課職員の活躍ぶりも印象的だった。普段は見ることができない市役所職員の仕事の裏側を、少しばかり垣間見ることができるのも、ご当地小説ならではの。いずれも行間には、郷土愛がてんこ盛り! 滋賀県人なら愛おしくなる小説である。書店や図書館で見かけたら一度手にしてはいかがだろう。

られる。一読すればディープな滋賀の魅力がたっぷり堪能できる。

ミステリー作家・柴田よしきの『蛇(ジャ)』は著者自身の冒険ファンタジー。ミヒヤエル・エンデ原作の映画「ネバーエンディング・ストーリー」のように、童に乗って物語を旅する気分になれる。生まれたばかりの赤ん坊がピンクの竜に連れ去られ、琵琶湖では正体不明の生物が発見される。ヒロイン舞子は赤ん坊を取り返すために仲間たちと竜を追いかけ、時空を超えて戦国時代、そして太古の琵琶湖へ。そこには竜からのメッセージが…。

いずれも奇想天外、荒唐無稽な物語ではあるが、現在の琵琶湖がかかえる環境問題を直視して、考えさせられることも少なくない。



作家 松本匡代さん

新たな歴史ヒーロー像誕生!
創作の意外な舞台裏

滋賀県文学祭特選の小説をツイッターに投稿、閲覧者からの声によりその続編を連載し、今年2月には小説『石田三成の青春』として書籍化された。史実に沿いながらも、女性目線で描いた独自の三成像が新鮮と大きな話題に。著者・松本匡代さんに創作の秘密を聞いた。

近江の戦国武将
石田三成が青春小説になった!?



『石田三成の青春』
松本匡代(サンライズ出版)

★サイン本を3名様にプレゼント。
詳しくは25ページ参照。

有名なエピソードも新解釈で
今までにない三成像に

— 乱世に戸惑い傷つきながらも大谷吉継と友情を育む青春、妻子とのつかの間の日常生活など、従来の冷たい三成というイメージとは大きく違う『石田三成の青春』はとても新鮮でした。反響はいかがでしたか。

— 調べで長浜や彦根に行って、地元の方がこんなにも三成に思い入れがあるんだと驚きました。地元でここまで愛せる人がいるってうらやましいですね。私の出身地、三重県伊勢市にそんな人はいなかったですから。そうした強い思いがプレッシャーで、滋賀県の人たちや三成ファンに「こんなのは三成と違う!」と怒られるかと思ったんですが、良い反響をいただきホッとしています。執筆中は編集者から

— 三成は「武将」じゃないと私は思うんです。私の中では「能吏」です。従来の小説やドラマでは高慢で冷徹な人物として描かれることが多いですが、悪気はないんですよ。ただ相手がどう感じるかを考えずに思ったことをそのまま口にしてしまう、頭物だったのでしょうか?

— 三成は「武將」じゃないと私は思うんです。私の中では「能吏」です。従来の小説やドラマでは高慢で冷徹な人物として描かれることが多いですが、悪気はないんですよ。ただ相手がどう感じるかを考えずに思ったことをそのまま口にしてしまう、頭物だったのでしょうか?

— 三成は「武將」じゃないと私は思うんです。私の中では「能吏」です。従来の小説やドラマでは高慢で冷徹な人物として描かれることが多いですが、悪気はないんですよ。ただ相手がどう感じるかを考えずに思ったことをそのまま口にしてしまう、頭物だったのでしょうか?

— 三成は「武將」じゃないと私は思うんです。私の中では「能吏」です。従来の小説やドラマでは高慢で冷徹な人物として描かれることが多いですが、悪気はないんですよ。ただ相手がどう感じるかを考えずに思ったことをそのまま口にしてしまう、頭物だったのでしょうか?

— 三成は「武將」じゃないと私は思うんです。私の中では「能吏」です。従来の小説やドラマでは高慢で冷徹な人物として描かれることが多いですが、悪気はないんですよ。ただ相手がどう感じるかを考えずに思ったことをそのまま口にしてしまう、頭物だったのでしょうか?

— 三成は「武將」じゃないと私は思うんです。私の中では「能吏」です。従来の小説やドラマでは高慢で冷徹な人物として描かれることが多いですが、悪気はないんですよ。ただ相手がどう感じるかを考えずに思ったことをそのまま口にしてしまう、頭物だったのでしょうか?



はいけれど鈍感で周囲のみんなをイラッとさせる...そういう人っていますよね?

— 書き始めても最初は人物像が全然まとまらなくて、ずっと手探りでした。最後の章を書き終えて、やっと自分なりの三成ができたなと感じました。

— 三成とは対照的な大谷吉継がいい味を出していましたね。最初から三成と吉継、二人の友情を中心にすえようかと?

— いいえ、全然(笑)。最初は加藤清正や福島正則、蜂須賀家政たちとの群像ものにしてしようと考えていました。でも大谷吉継を書くことで三成が生きたなと感じています。何もかもかなぐり捨てて友情を選んで関ヶ原で三成に味方した大谷吉継はいいなと前から思っていたんです。

— 作中に散りばめられた有名なエピソードや史実についても従来とは違う解釈が提示されていて、どこからが松本さんの創作なのかわからないくらい違和感なく読めましたし、読んでいてとても気持ちのいい小説でした。

— いつも温かい後味がいいものを書きたいと思っているの、そう言ってもらえるとうれしいです。

— 史実と創作部分が自然な流れになるよう意識しました。特に吉継の半生はほとんどわかっていないので、三成との幼少時代も完全に創作しました。

— 2014年の滋賀県文学祭応募作で特選になった「思惑三成襲撃事件」を推敲して8章に、翌年特選の連続受賞となった「清濁本能寺の変異聞」が5章に入っています。全体の構想の中で、まずハイライトシーンから書き始めたということですか?

— 構想は全然ありませんでした(笑)。私はプロットを詰めないんですよ。あまり途中から書き始めることはないのですが、編集者から送られてきた資料にザッと目を通したところでその頃に、映画『のぼうの城』をテレビで観て。これだったら書けるかなと思って、まず7章の「浮き城」を書いてみました。その後、滋賀県文学祭に応募するために8章の「三成襲撃事件」を書いて、あとは1章から書きました。

理系女子が時代小説を書き始めた理由

— 松本さんは薬学部を卒業後、物理学を学ぶため再び大学へ入学され大学院まで進まれたという異色の経歴ですね。何をきっかけに小説を書き始めたのですか?

— 子どもの頃から書くことは好きでしたが、もともと理系だったので小説家になろうとか全然思っていませんでした。小説を書き始めたのは、薬学部に行っていた19歳の時。本当は薬学部に行きたくなって...



作家 松本匡代(まつもと・まさよ)

1957年三重県伊勢市生まれ。名城大学薬学部を卒業して薬剤師の資格を取得。奈良女子大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了後、日本IBM入社。2002年退社。2012~15年滋賀県文学祭小説部門で4年連続特選。著書に『夕焼け 土方歳三はゆく』(新人物往來社)『新選組 試衛館の青春』『独白新選組 隊士たちのつばき』(ともにサンライズ出版)がある。現在、大津市在住。



JR長浜駅にある秀吉と三成の「出逢い」の像



番外編

三成青春MAP

滋賀県はいま空前の「三成ブーム」!? 長浜市、米原市、彦根市では「石田三成に逢える近江路「MEET三成展」が開催中(11月30日まで)。
 松本匡代さんの小説『石田三成の青春』にも登場する歴史の舞台を訪ねてみよう。

石田三成ゆかりの地を歩く

大蛇(おとち)の岩窟

木之本町古橋

関ヶ原合戦後、落ち延びた三成が匿われたという己高山近くの岩窟(危険なので立入注意)。

長浜城跡

現長浜城歴史博物館

羽柴秀吉の出世城といわれる長浜城で、秀吉に召し抱えられた三成は小姓として仕える。この城で少年時代の福島正則、加藤清正、蜂須賀家政、そして人質であった松寿丸(のちの黒田長政)らと出会うが、秀吉の死後、三成と彼ら是对立することになる。



賤ヶ岳古戦場

小谷城跡

横山城跡

大原観音寺

米原市朝日

羽柴秀吉との出会いとなった「三献の茶」の逸話で知られる大原観音寺。三成はこの寺の小姓だった。寺内には「三成水汲みの井戸」がある(小説では「三献の茶」の逸話に新しい解釈を加えている)。ゆかりの寺として木之本町古橋の法華寺三珠院説も。



大谷吉継の首塚

米原市下多良

関ヶ原合戦で西軍に加わった大谷吉継の首は米原の地に埋められたともいわれている。

秀吉と三成の「出逢い」の像

石田三成出生地

長浜市石田町



三成の出生地とされる石田屋敷跡には石田会館があり、「石田治部少輔出生地」の碑と三成像がある。周辺には三成産湯の井戸や石田家の氏神といわれる八幡神社など関連史跡がある。小説では、長浜城出陣前夜、三成の父や母、兄ら家族との情景も描かれている。

写真提供/びわこビジタースピロー

Information

石田三成に逢える近江路「MEET三成展」開催中

5月14日(土)~11月30日(水) ■会場/彦根会場、米原会場、長浜会場(いずれも入場無料) ■主催/びわ湖・近江路観光圏活性化協議会

彦根会場 真田丸にみる石田三成と激動の佐和山城展

- 会場/開国記念館(彦根城佐和口多聞櫓)
- 内容/「真田丸」に登場する三成を映像で紹介。衣装・小道具の展示、佐和山城跡紹介コーナーなど

米原会場 運命・米原企画展

- 会場/大原観音寺本坊
- 内容/秀吉・三成出逢いの地、観音寺と現代に生きる三成像を紹介。「三献の茶」の体験など

長浜会場 真田丸ゆかりの武将展

- 会場/湖北観光情報センター、石田会館
- 内容/「真田丸」に登場する長浜市ゆかりの武将についてパネルで紹介
 ※長浜会場は有料イベント有

お問い合わせ先/びわ湖・近江路観光圏活性化協議会

長浜市観光振興課 TEL.0749-65-6521 米原市商工観光課 TEL.0749-58-2227 彦根市観光企画課 TEL.0749-30-6120